

春の活用社会実験の実施報告

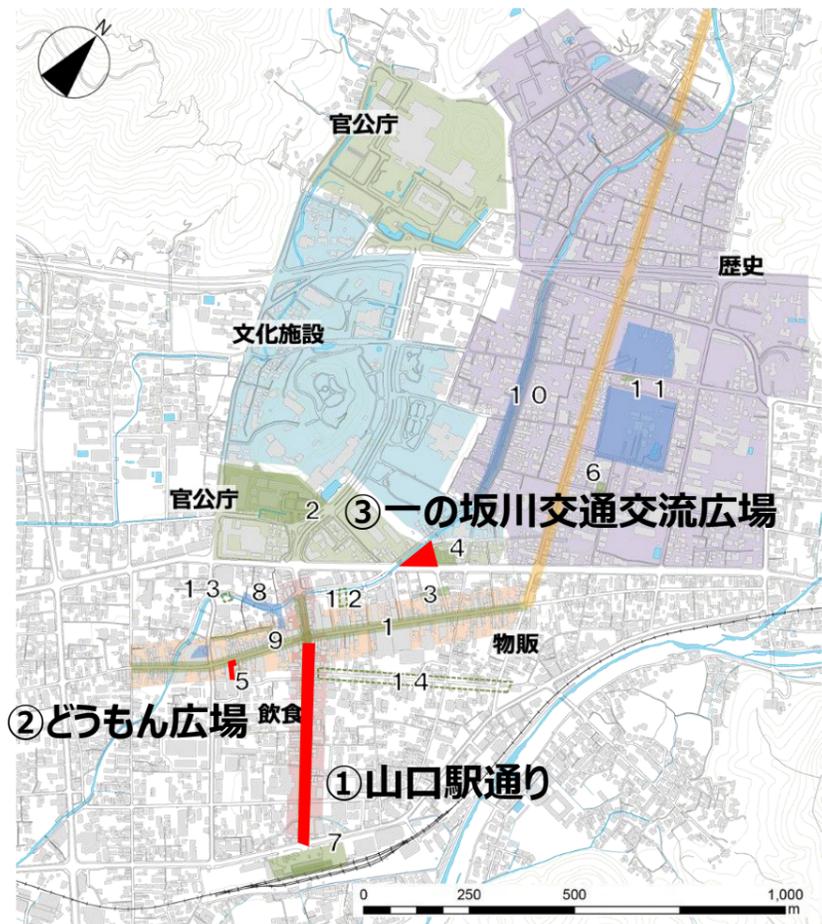
第3回山口市まちなかウォークブル推進会議

1. 社会実験の概要

■ 目的

- ・各スモールエリアの将来の空間イメージの共有
- ・空間の活用可能性の検証（事業性、ニーズ、使われ方など）
- ・空間の構成や必要な機能、什器デザイン及び配置の検証
- ・継続的な維持管理及び運営方法の検証
- ・将来像の実現に向けての課題の洗い出し

■ スモールエリアと今回の実施場所



0. 山口駅通り
1. 中心商店街
2. 市役所広場
3. 新天街
4. 一の坂川交通交流広場
5. どうもん広場
6. 大内文化ゾーン
7. 山口駅前広場及び周辺
8. 一の坂川沿い（商店街）
9. さぼらんで跡
10. 一の坂川（大殿）
11. 八坂神社/龍福寺周辺
12. ほたる広場
13. スペースパンプローナ
14. 天神通り
15. Nac/なかぴあ

■ 調査項目

	アンケート ヒアリング調査	滞留行動調査	交通調査
①山口駅通り	・沿道事業者ヒアリング ・利用者アンケート	・アクティビティ調査 ・滞留時間調査	
②どうもん広場	・地先事業者ヒアリング ・出店者アンケート ・利用者アンケート	・アクティビティ調査	
③一の坂川 交通交流広場		・アクティビティ調査 ・什器利用状況調査	・周辺の交通状況調査

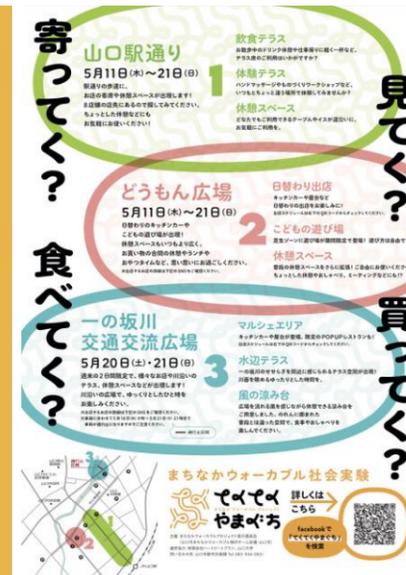
■ スケジュール

	山口駅通り	どうもん広場	一の坂川交通交流広場
5月6日（土）～		事前搬入	
5月9日（火）	看板設置		看板設置
5月10日（水）	設営準備	設営準備	
5月11日（木）			
5月12日（金）	調査		
5月13日（土）		出店・調査	
5月14日（日）	調査	出店	
5月15日（月）			
5月16日（火）		出店・調査	設営準備
5月17日（水）			設営準備
5月18日（木）		出店	設営準備
5月19日（金）		出店	調査
5月20日（土）			出店
5月21日（日）			出店・調査
5月22日（月）	撤去	撤去	撤去

※どうもん広場は事前調査を4月22日（土）、5月8日（月）に実施
 ※一の坂川交通交流広場は事前交通調査を4月21日（金）、4月23日（日）に実施

■ 広報物

チラシ（4000部）



ポスター（80部）



※チラシは近隣小学校・幼稚園・保育園での配布、各施設への配架を実施
 ※その他、市報・SNSなどにて発信

■ 実施体制

主催：まちなかウォークブルプロジェクト実行委員会
 （山口市まちなかウォークブル検討チーム会議・山口市）
 運営協力：有限会社ハートビートプラン・山口大学

■ 目指す姿

- ・歩行者が安心安全に歩ける通りとなっている
- ・歩道空間の一部が地先事業者によって活用され、日常的な賑わいが創出されている
- ・休憩施設が設置され、滞在環境がつけられている
- ・山口のメインストリートとしてふさわしい設えになっている

■ プロジェクトコンセプト

「居心地が良く歩きやすい歩行者中心の山口駅通り」

■ 実施概要

① 各店舗の地先空間活用のトライアル

- ・社会実験に参加する各店舗の地先空間約1.5m幅に客席や休憩施設を設置（点字ブロックを塞がないように配慮）
- ・沿道店舗自身での活用を基本とし、実施店舗と関係性のある事業者と一緒に活用することは可能とする（一部店舗で実施）

② 歩行者及び活用時の安全性確保（自転車向けの啓発）

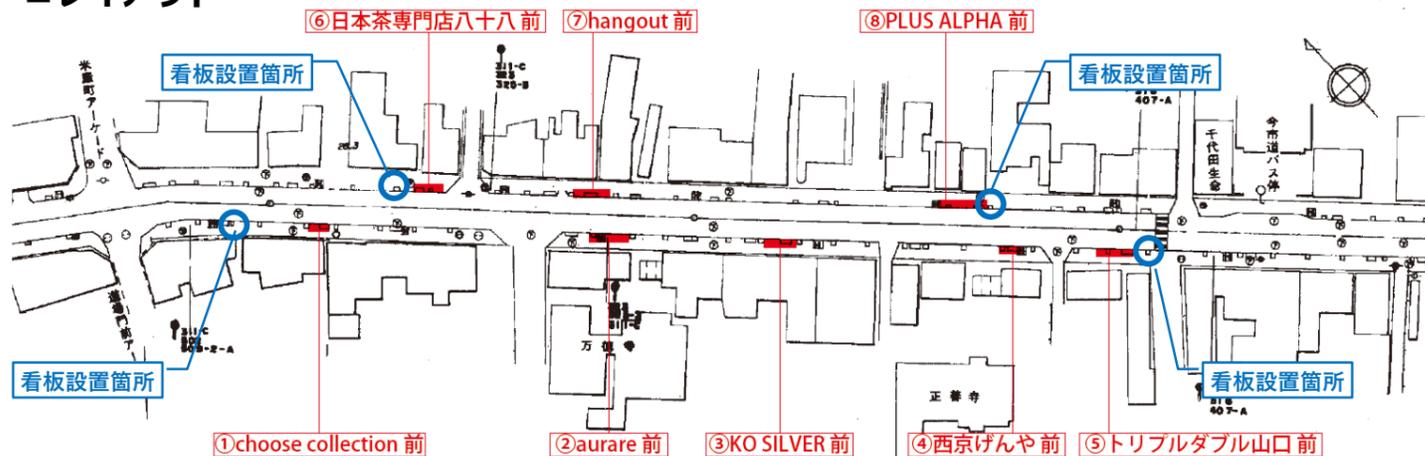
- ・自転車歩行者道を通行する自転車に対し、注意喚起の看板を設置（実施区間の両端・歩道の両側 計4箇所）

③ 地先空間活用にあわせて営業時間・サービス変更の試行

- ・営業時間の変更は行われなかったが、一部店舗で期間限定の企画展を実施



■ レイアウト



① 什器

- ・テーブル・イス・カウンター等
- ・期間中常設（期間前後に設置作業を実施）

② 社会実験の案内サイン

- A：社会実験の趣旨、事務局の連絡先等（①の什器に合わせて設置、計8箇所）
- B：自転車への注意喚起の看板

③ 各店舗所有のテーブル、イス、物販用什器など

- ・利用に際して必要な物品は、営業時間に合わせ、各店舗で出入れ
- ・市所有の可動式のイスを貸し出し

■ 検証項目

① 地先活用の必要性の検証

- ・利用状況、利用者・運営側のメリット、店舗のサービス内容との関係性

② 地先運用の検証

- ・運用方法、ルール

③ デザイン性の確認

- ・利用時のわかりやすさ、利用可能スペース、意匠、景観等

④ 交通影響の検証

- ・通行環境への影響、歩行者・利用者の安全性

■ 検証方法

- ・当日の利用状況調査
- ・利用者へのアンケート
- ・参加店舗へのアンケート
- ・滞留行動調査

■ 設置の様子

客席としての利用



展示スペースとしての利用



休憩スペースとしての利用



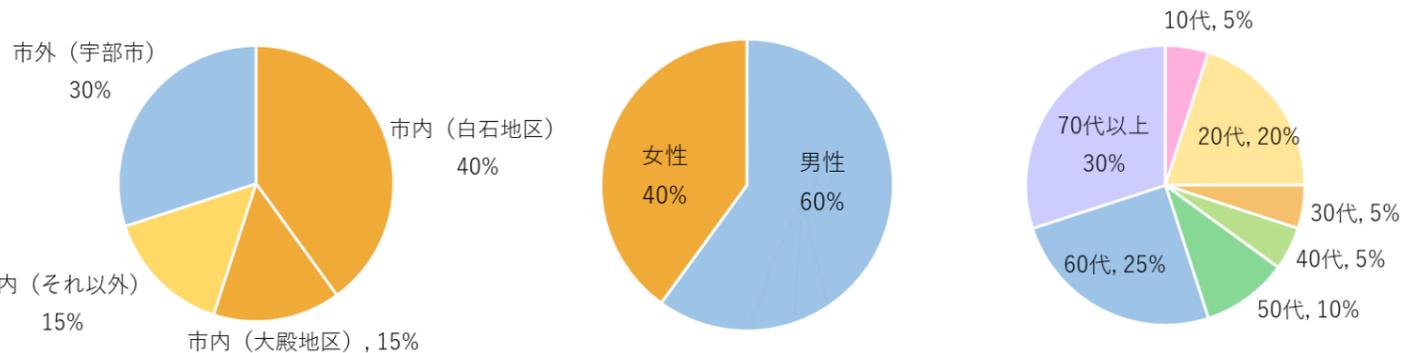
啓発看板の設置



■ 調査結果

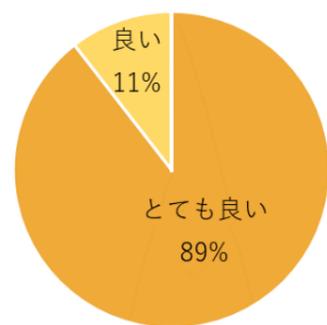
①利用者アンケート(N=20)

●回答者の属性 (居住地、性別、年代)

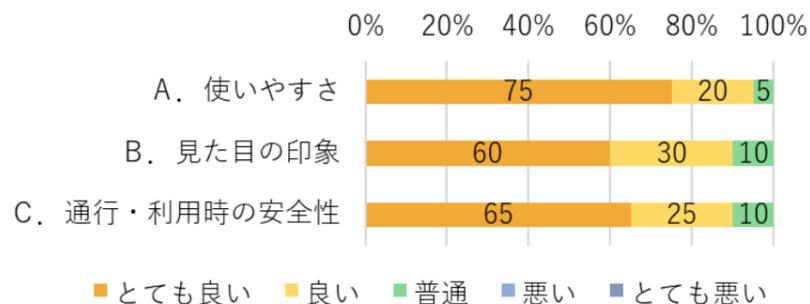


・回答者の属性は、7割が市内居住者で、うち8割がまちなかの白石地区、大殿地区の居住者。
 ・性別は男性：女性 = 6：4、年齢は約半数が60代以上。

●歩道空間の使い方について

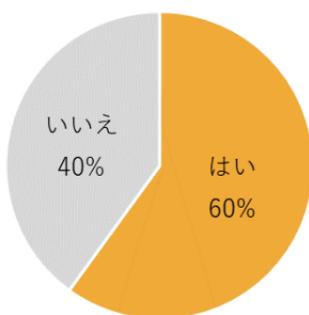


●設置物について

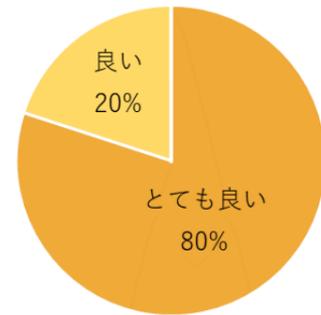


・歩道活用の取り組みは、「とても良い」が89%、「良い」が11%と評価が高く、座って休憩できることや滞留できることが評価された。
 ・設置したテーブル・イスの「使いやすさ」、「見た目の印象」、「通行・利用時の安全性」は、いずれの項目も「とても良い」、「良い」を合わせると9割以上で評価が高い。

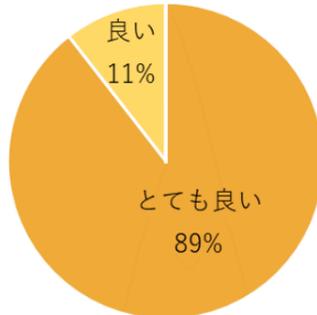
●取り組みの認知について



●まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることについて



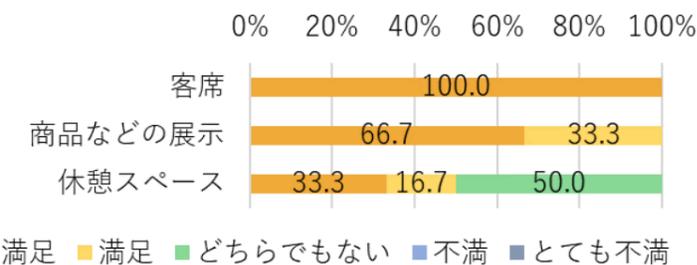
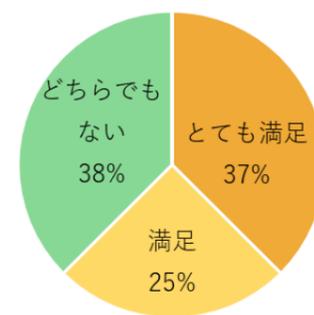
●てくてくやまぐちの取り組みについて



・まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることについては、「とても良い」が80%、「良い」が20%で、人通りや通りの楽しみを求める意見が挙げられた。
 ・取り組み全体については、「とても良い」が89%、「良い」が11%と評価が高く、今後の取り組みへの期待に関する意見が挙げられている。

②事業者アンケート(N=8)

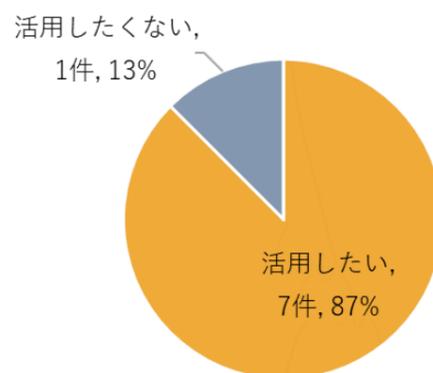
●取り組みの満足度



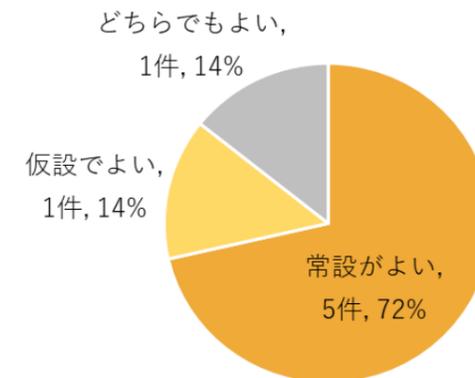
とても満足	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の土日よりも、人の流れが多く、歩かれるペースもゆったりしていた。 ・外にチラシを置いてあるだけでも効果があり、店内に置いているよりも手に取られる方が多かった。 ・実施期間がもう少し長いと良かった。雨が多く実験するには期間が短かった。 ・もう少し期間が長ければ、他にも試してみたいことがあった。 ・良い取り組みのため、続けた方がよい。もっと参加される方を増やした方がよい。
満足	<ul style="list-style-type: none"> ・時間があるときに外のテーブル・イスに出てみると、思っていたより人通りがあることに気付いた。店の外装を見ながら歩かれる方も多かった。 ・外に置いたPOP広告を見て入店していただけた。
どちらでもない	<ul style="list-style-type: none"> ・自店の顧客は店内で飲食されたいという方が多いため、あまり利用されなかった。全体としてはどのように使っていくのがよいか？ ・取組全体は良いが、自店の前にはなくてよいと実感した（理由：接客中に外から見られていると恥ずかしい等）。 ・雨が多かったのが残念。

・取り組みの満足度は、「とても満足」が37%、「満足」が25%、「どちらでもない」が38%で、サービス内容に合わせて積極的な活用（客席、商品の展示、チラシの設置等）を行った店舗ほど満足度が高い。

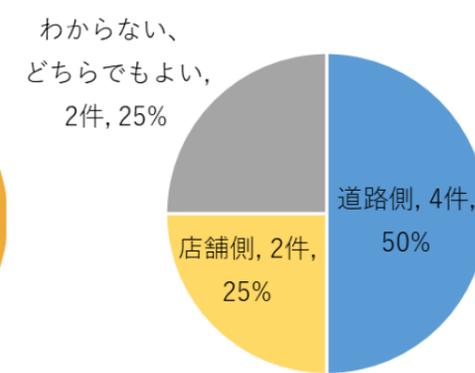
●今後の活用意向



●常設・仮設のどちらが良いか



●活用する場所について



・今後の歩道空間活用については、参加店舗8件中7件が活用意向を示している（活動の頻度や内容は店舗により異なる）。
 ・今後活用する場合の什器は、「常設がよい」とする意見が多いが、耐久性、管理の問題によるとする意見が挙げられた。
 ・今後活用する場合に活用しやすい位置については、「道路側」とする意見がやや多く、通行者が注目しやすいことを理由に挙げている。「店舗側」とする意見には、サービス提供時の安全性についての意見が挙げられた。
 ・また、利用しやすい場所や什器の種類において、日陰の確保の必要性が挙げられた。

■ 調査結果

③ 滞留調査

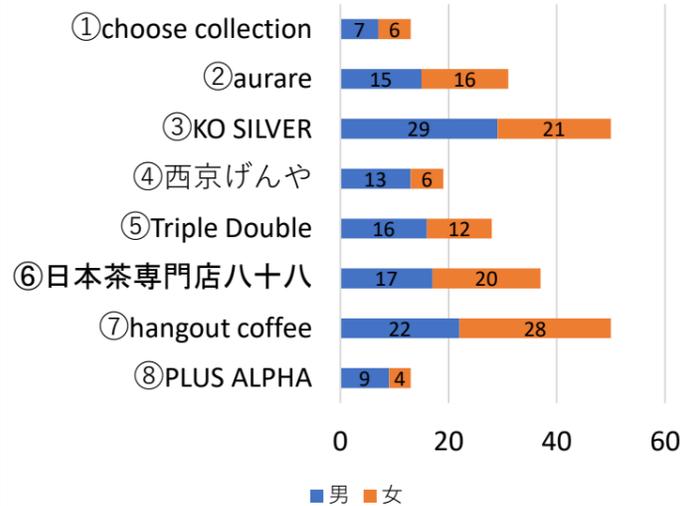
● 各設置場所での人数と属性

調査日時と調査対象者数

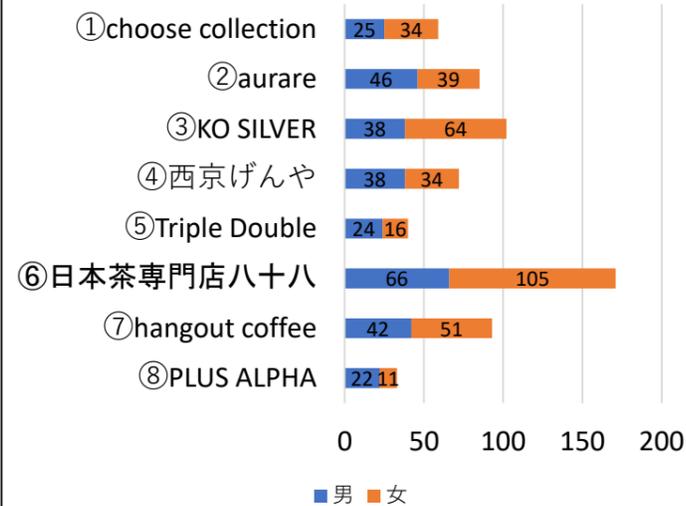
5/12 (金) 10:00~18:00 241人

5/14 (日) 10:00~18:00 655人

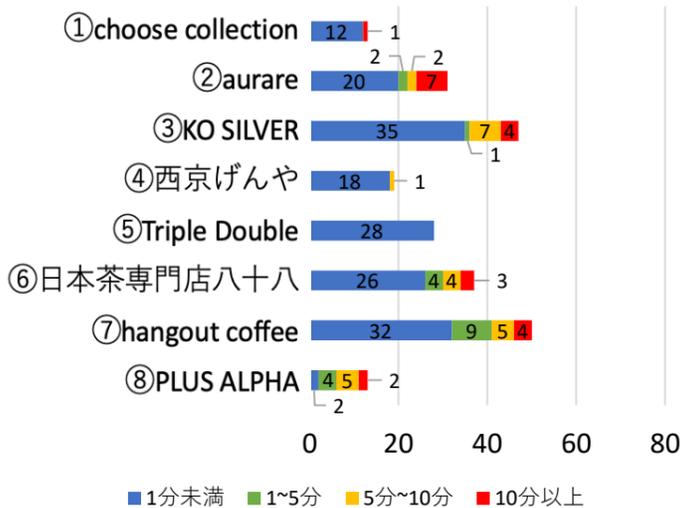
5/12 (金) 男女別人数分布



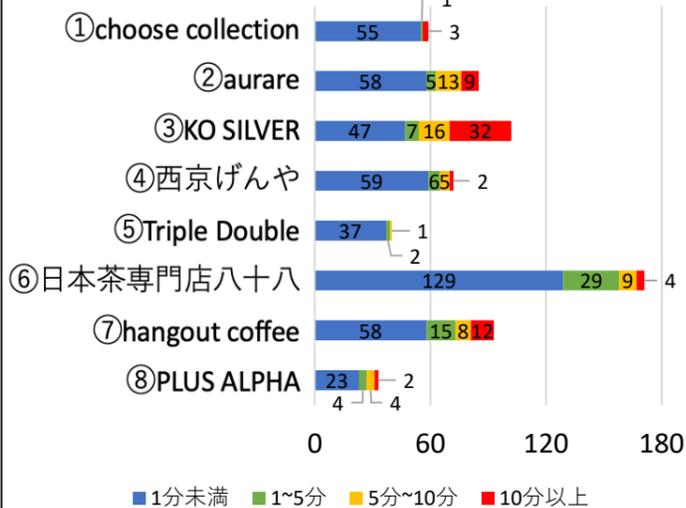
5/14 (日) 男女別人数分布



5/12 (金) 滞留時間



5/14 (日) 滞留時間



平日について

- 平日は、KO SILVERとhangout coffeeでの滞留が最も多く、次に日本茶専門店八十八、aurareの順であった。
- 滞留時間は立ち止まる程度の短時間が多く、10分以上は一部しか見られなかった。

休日について

- 日本茶専門店八十八での滞留が最も多かったが、什器の近隣店舗の来店待ちに使われていることの影響が大きかった。
- 平日より長い時間の滞留が増加し、KO SILVERでは半数弱が5分以上の滞在となった。

■ 検証結果分析

① 地先活用の効果の検証

(利用状況、利用者・運営側のメリット、店舗のサービス内容との関係性)

- 設置した什器の利用及び店舗前空間での滞留は、休憩や少し足を止めるような短時間のものが多いが、休日では滞留時間の増加傾向が見られた(平日<休日)。
- 設置場所別では、参加店舗においてサービス内容に合わせて積極的な活用(客席、商品の展示、チラシの設置等)を行った場所については、利用頻度が高く、参加店舗の満足度も高かった。その他の主な使われ方として、近隣店舗の開店待ちが見られた。
*上記の活用内容のうち、(テイクアウト以外の)客席や商品の展示等を行うには、店舗スタッフの目が届く必要があり、店舗のつくりやファサードがオープンか等の影響が大きいと考えられる。
- 参加店舗の多くは今後の活用意向を示している。活用内容の意向については幅がある。

② 運用方法の検証

(運用方法、ルール)

- 什器の運用については、期間中常設で設置したため、店舗側での対応は可動式のイスや商品等の出し入れ、什器の拭き掃除等で、特に問題はみられなかった。
- 自転車の利用に関して、普段から沿道店舗利用者が歩道上に駐輪するケースが見られるが、什器が設置されていたことで、自転車の駐輪場所について尋ねられたという報告が複数あった。

③ デザイン性の確認

(利用時のわかりやすさ、利用可能スペース、意匠、景観等)

- 利用時のわかりやすさについては、参加店舗から、「通行者が利用してよいものか分かりにくい」、「説明の掲示はあったが分かりにくく、年配の方向けの案内があると優しい」、「市民に浸透していない(慣れれば使われるかもしれない)」等の意見が挙げられた。
*休憩スペースとして設置したものが多く、利用が通行者に委ねられたことも影響したと考えられる。
- 利用可能スペースについては、当初予定の幅員の中で問題なく利用された。
- 意匠については、利用者の評価は高い一方で、参加店舗からは「三角の形状がとがっており気になる」、「(仮設のため)安っぽく店構えに合わない」、「自店のターゲット層に合う見た目のものがよい」、「(一部の什器が)場所に対して大きいと感じた」等の意見が挙げられ、個店ごとのニーズの違いが見られた。

④ 交通影響の検証

(通行環境への影響、歩行者・利用者の安全性)

- 通行者・利用者の危険性について言及する意見は挙げられなかった。
- 利用者の声に「店構えをゆっくり見ることができる」とある一方で、参加店舗からは「歩道にしている人がいると、店前の道路に車を横づけして来店する方が来にくくなる」という意見が挙げられた。

■ 目指す姿

- ・ 広場が一体的に活用され来街者の居場所となっている
- ・ 飲食などの提供により賑わいが創出されている
- ・ 商店街における子ども連れの滞在環境がつけられている
- ・ その他のサービス（授乳室やベビーカー・車椅子の貸し出しなど）により街の滞在時間の向上に寄与している

■ プロジェクトコンセプト

「商店街に快適な滞在環境を生み出す」

■ 実施概要

① 所有者の異なる空間の一体的な活用

- ・ 広場として一体的に使えるような空間配置（動線と滞留空間）
- ・ 管理運用ルールの策定と実施

② 滞留空間としての機能の拡充と事業性の確認

- ・ 飲食などの事業者を公募し、事業を実施
- ・ ベンチやテーブルなどの什器の設置
- ・ 夜間の照明演出

③ 子どもの居場所、遊び場としての活用

- ・ 子どもが遊べる什器やランドスケープの設置

④ 来街者向けサービスの試行

- ・ 車椅子やベビーカーの貸し出し

■ レイアウト



■ 検証項目

- ① 一体的な空間運用の検証
 - ・ 利用状況、運用ルール、什器などの配置の妥当性
- ② 広場での事業性の検証
 - ・ 売上、配置、営業時間や曜日、利用者属性
- ③ 遊び場としての空間の検証
 - ・ 空間の配置や必要な設備や什器等
- ④ 利用者の利便性の検証
 - ・ 各種サービスの利用状況、滞在環境への効果

■ 検証方法

- ・ 当日の利用状況調査
- ・ 利用者へのアンケート
- ・ 出店者へのアンケート
- ・ 地先事業者ヒアリング
- ・ 滞留行動調査

■ 設置の様子

コンクリートベンチ用座具



手すり用テーブル



イス・テーブル増設



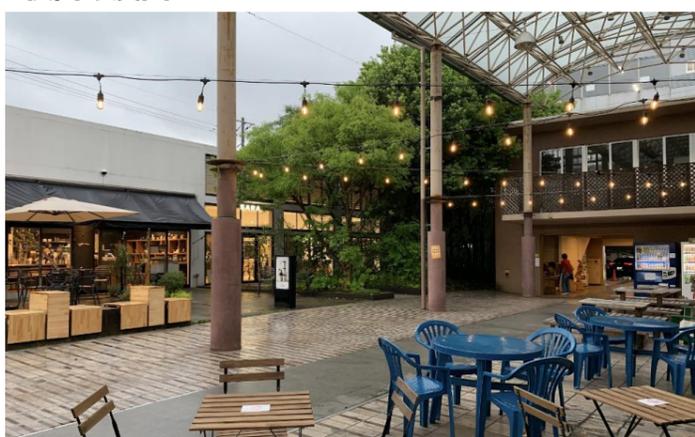
広場全体の様子



遊び場の様子



夜間の演出



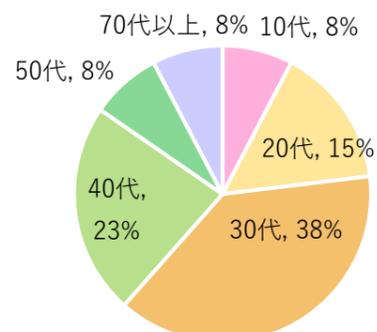
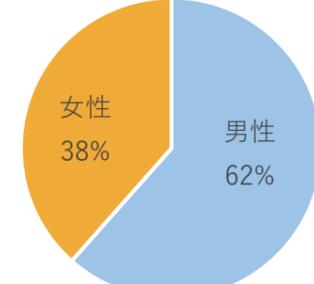
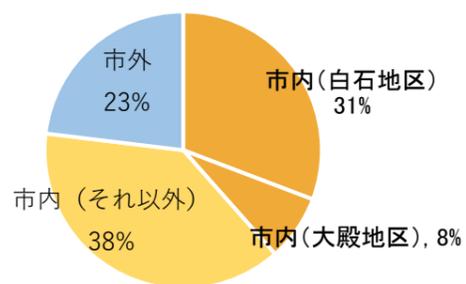
飲食事業者の出店



■ 調査結果

① 利用者アンケート(N=32)

● 回答者の属性 (居住地、性別、年代)

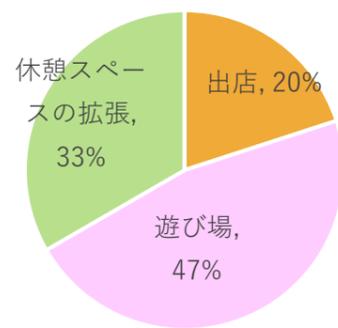
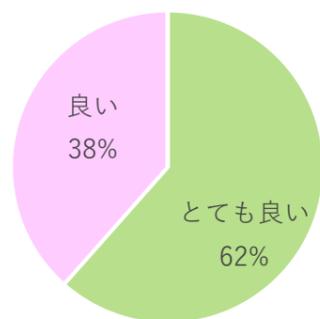


・回答者の属性は、8割弱が市内居住者で、うち約半数がまちなかの白石地区、大殿地区の居住者。
 ・性別は男性：女性 = 6：4、年齢は30代、40代が多く全体の6割程度であった。

● どうもん広場の取り組みについて

● 特に良かったもの

● まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることについて



・広場活用の取り組みは、「とても良い」が62%、「良い」が38%と評価が高く、活気があること、憩う空間であることが評価されている。
 ・特に評価の高かった取り組みは「遊び場」で全体の半数近くとなった。
 ・まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることについては、「とても良い」が77%、「良い」が23%で、活気や人が集うことを求める意見が挙げられた。

● てくてくやまぐちの取り組みについて



・取り組み全体については、「とても良い」が69%、「良い」が31%と評価が高く、もっと進めて欲しいという意見が上がっている。

② 地先事業者ヒアリング

【店舗の営業への影響】

- ・利用者のマナーも良く問題なかった
- ・全体的に賑やかな雰囲気楽しかった

【売上への影響】

- ・出店がある日には売り上げにも効果があった
- ・大きなことはしていないのに、休日はイベントを実施した時と同じくらいの売り上げがあった

【その他】

- ・夜が暗く怖いので、照明演出があるのは良かった

・地先の事業者の売上にも寄与することができ、おおむね好意的な意見を得ることができた。

③ 出店事業者アンケート(N=4)

No.	1	2	3	4
	休日出店	休日出店	休日出店/平日出店	平日出店/平日出店
出店理由	主催者からの直接のお誘いを受けたから。	宇部市でもウォークブルのまちづくりをしているので、興味があったから。	誘われたから	出店できる機会があると知ったため。Facebookで情報を知った。
満足度(理由)	①とても満足 子どもが元気に遊んでいる。	①とても満足 購買意欲も高く、食事スペースもあるので、にぎわいに繋がっているように思いました。	③どちらでもない 定着すればいいですね	②満足 出店できたため。自身の商品を知ってもらえる機会になるため。
今後の参加意向(理由)	①参加したい 人・場所・コトなど気持ち良く出店させて頂けました。	①参加したい 売上げが見込めるのと地域の「にぎわい」のお手伝いができるのは嬉しいです。	③分からない 何かと忙しいので。	①参加したい 地元を盛り上げたいため。
予想との比較	①予想以上だった	①予想以上だった	②予想同程度だった	③予想以下だった
出店箇所や広さについて(理由)	①とても満足 全てがちょうど良く思えた(感覚的ですみません)。	②満足 広すぎない所が落ち着く感じで良いと思いました。～19時まで出られないのが少し残念	②満足 屋根がある	③どちらでもない 特に問題はない。
良かったところ改善すべきところ	事前にご来場が予想される人物像を教えてくださいと助かります。	子どもが遊んだり、買い物したり、食事したり、生活、日常の自然な流れの中ににぎわいできていたと思いました。日曜日は16時または長くても17時までが良いと思いました。		良かったところ：電源を借りられる。 改善すべきところ：もう少し告知をしてほしい。平日の出店料は少し下げてもらえると良い。
日常的化について(理由)	②良い 交流が生まれるきっかけになる(ゴミや利用については注意がいますが)。	①とても良い 商店街の魅力にも繋がると感じ、出店者の活躍の場にもなり、良いと思います。	②良い	①とても良い キッチンカーに寄ったついでに1人でもお客さんが商店街に来てくれると有難い。
意見・感想	出店させて頂きありがとうございました。	継続して行うことで、「どうもん広場、商店街に行けば楽しいことがある！」と思ってもらえるようになると思います。ただ、ずっと同じコトではなく、少しの変化は必要だと思います。	緑もあって良い空間だと思います。	継続してもらえると良い。

■ 調査結果

④ 滞留調査

● 広場の滞留人数

調査日時

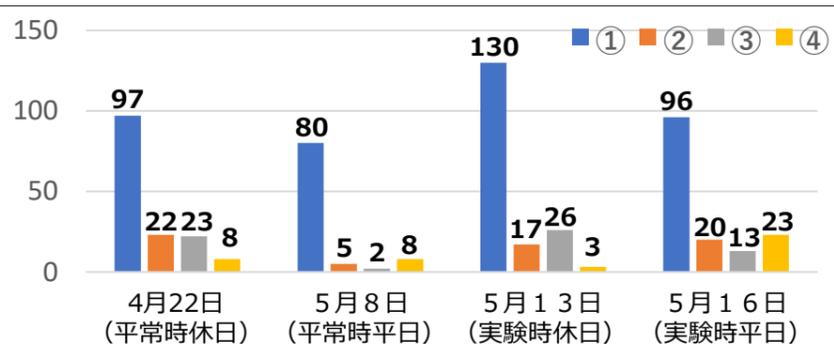
4/22 (土) 9:00~18:00、5/8 (月) 9:00~18:00

5/13 (土) 9:00~18:00、5/16 (月) 9:00~18:00



・平常時と比べ社会実験時は、広場の広範囲で広がっていることが読み取れる。
 ・また、社会実験時には、子どもの遊びや会話など様々なアクティビティが広場全体で満遍なく見られた。

● 広場の出入り方向ごとの人数



・社会実験時に、①の商店街側から入り、商店街側に戻る出入りが増えていることから、広場で滞在することで、商店街へもう一度回遊する利用者が増えていると推測できる。

■ 検証結果分析

① 一体的な空間運用の検証

(利用状況、運用ルール、什器などの配置の妥当性)

- ・二つの敷地を異なる機能で一緒に活用することによって、多様な利用の場面を作り出すことができた。その結果、常に賑わいのある広場空間となった。
- ・また滞留行動調査により、広場全体が使われ、かつ休日では商店街に戻っていく割合も増えたことが明らかになり、今回の取り組みが商店街全体での滞留時間増加に寄与している可能性が高い。
- ・運用面においても、各施設を24時間開放していたが大きな問題は見られなかった。
- ・夜間の演出は、暗い印象だった広場の夕方～夜間の雰囲気向上につながったことから、継続して照明を設置することとなった。

② 広場での事業性の検証

(売上、配置、営業時間や曜日、利用者属性)

- ・出店の満足度は高く、今後の参加意向も高かった。
- ・売上は店舗によってばらつきがあったが、平日でも出店者の予想を超える売り上げがあり、天候や気温にも左右されるが、一定の事業性もあると考えられる。
- ・配置も当初の予定から変更し商店街側での出店としたため、搬入しやすく商店街からも見やすい配置となった。
- ・商店街の交通規制に準じた運用となっているが、営業時間の長時間化や出待ち時間などが課題であった。

③ 遊び場としての空間の検証

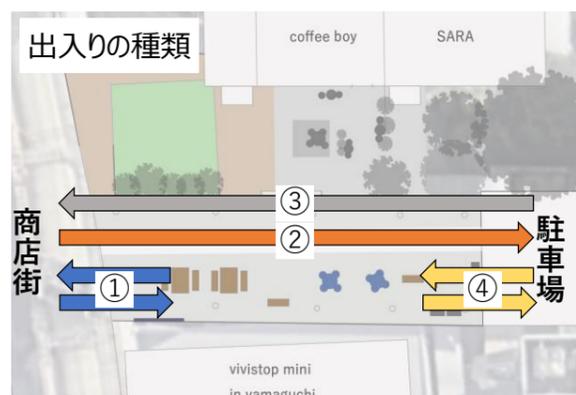
(空間の配置や必要な設備や什器等)

- ・分かりやすい遊具の設置ではなかったが、その分自由な使われ方をしており、当初の想定以上の利用があった。
- ・親はどうもん広場側の休憩スペースにいて、子どもは遊び場を利用する風景も多く見られ、上手く機能分担も出来ていた。
- ・一方で常設化にあたっては強度や維持管理が課題となる。

④ 利用者の利便性の検証

(各種サービスの利用状況、滞在環境への効果)

- ・車椅子、ベビーカーについては利用がなく、周知の問題かそもそもの需要の有無の問題か検証出来なかった。
- ・休憩施設の拡張、遊び場の設置、飲食出店のいずれも滞在環境の向上に寄与し、通常よりも多くの人が広場に滞在する環境をつくることが出来た。



■ 目指す姿

- ・親水性が高い魅力的な水辺空間が形成されている
- ・既存施設と広場・水辺空間が一体的に活用されている
- ・既存施設が有効に活用され、継続的に事業化されている
- ・広場全体が安定的に管理運営され、日常的に利活用されている
- ・交通交流広場が回遊のハブの一つとなり、一の坂川流域までゆっくりと足を伸ばすシーンが創出されている

■ プロジェクトコンセプト

「交通交流広場を水と緑と人の結節点に」

■ 実施概要

① 河川を感じることでできる空間づくり

- ・川沿いの植栽帯をテラス化し、親水空間を設置
- ・既存柵や欄干を活用した滞留空間の創出

② 道路空間を含めた一体的な広場活用

a. 道路空間活用

- ・道路空間へ什器などを配置して滞留空間とし、分断された空間を一体化

b. 交通規制

- ・空間の活用のための交通規制

③ 既存施設の利活用による賑わい創出

- ・地先空間と一体となった既存施設の事業活用

④ 交通結節機能の拡充

- ・シェアサイクルポートの移設
- ・広場の視認性向上のためのシンボルの設置

■ 検証項目

① 河川空間の利用ニーズ検証

- ・利活用の可能性、滞留ニーズ、管理手法

②a 空間の一体化による効果検証

- ・滞留シーンの創出や既存施設活用の効果の有無

②b 交通影響の検証 (※定量的な検証が必要)

- ・規制の影響 (う回路の妥当性、交差点への負荷) 歩行者の安全性

③ 既存施設の利活用・事業性の検証

- ・事業性、広場との連続性、相乗効果

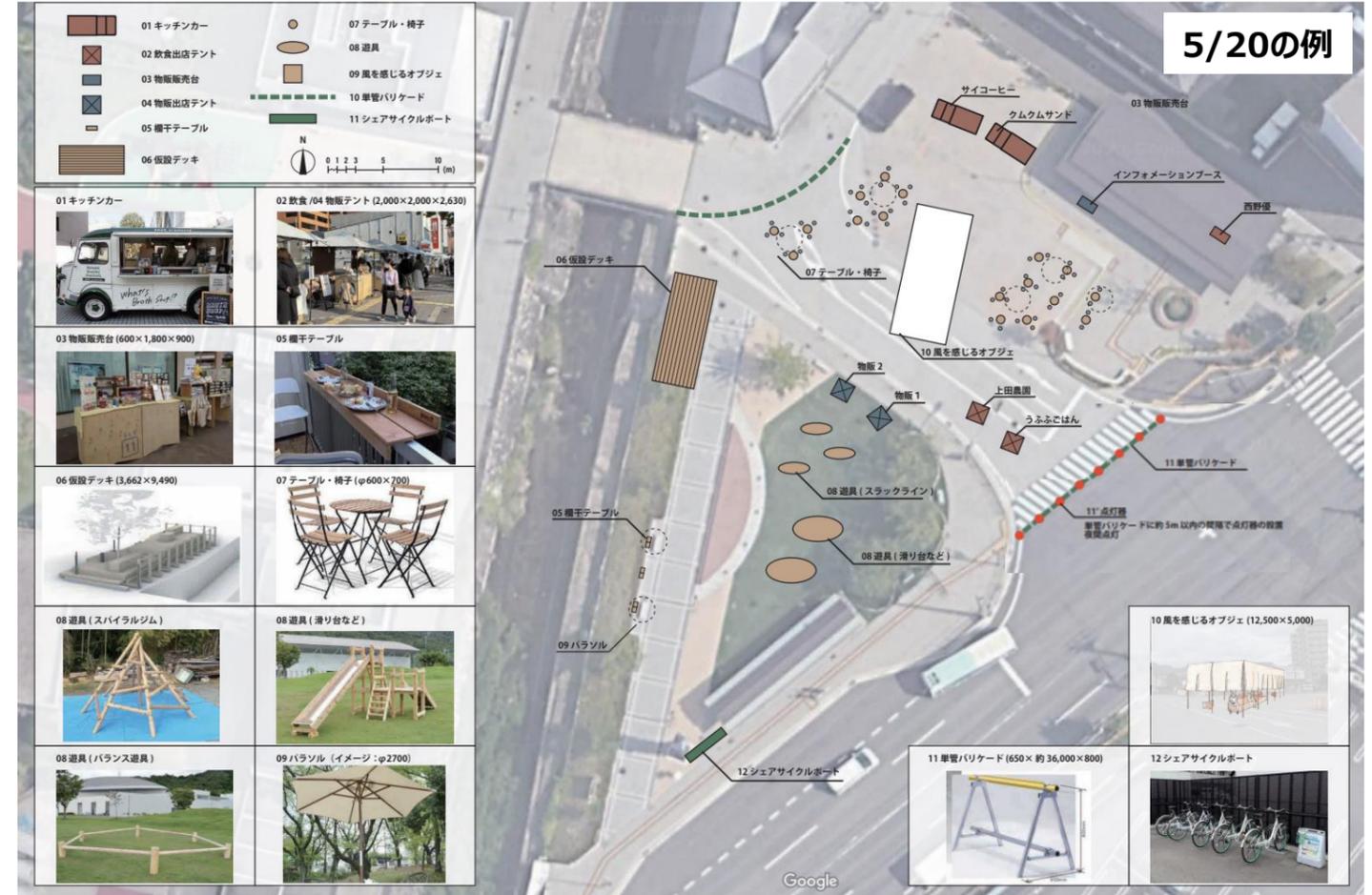
④ 交通結節機能の拡充

- ・国道や商店街などからの視認性向上策の有効性

■ 検証方法

- ・利用者へのアンケート
- ・出店者へのアンケート
- ・滞留行動調査
- ・当日の利用状況調査
- ・交通量調査

■ レイアウト



■ 設置の様子

ミズベテラス



風の涼み台



ミズベテラス



風の涼み台



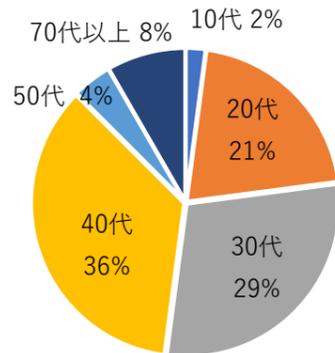
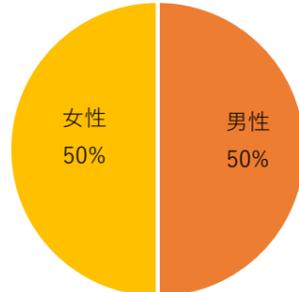
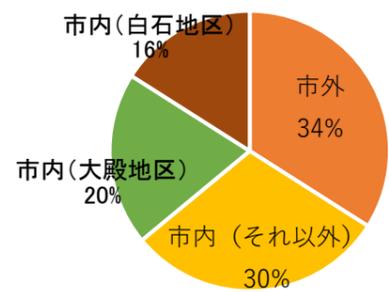
木製遊具



■ 調査結果

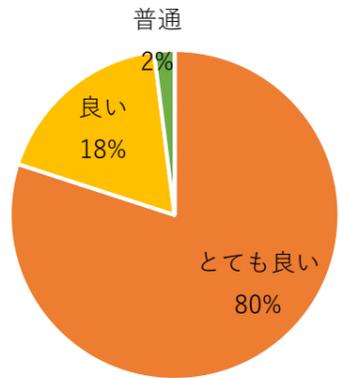
① 利用者アンケート(N=50)

● 回答者の属性 (居住地、性別、年代)

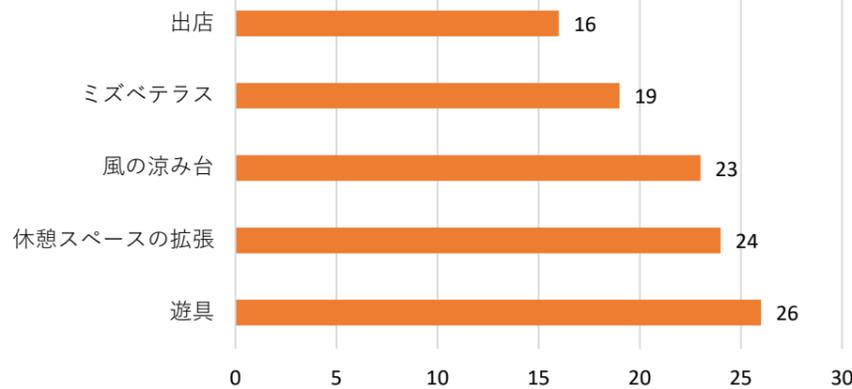


・回答者の属性は、6割強が市内居住者、3割強が市外（宇部市等）。
 ・性別は男性：女性 = 5：5、年齢は40代が最も多く全体の4割弱、20代～40代で全体の8割以上を占めた。

● 広場の一体化について

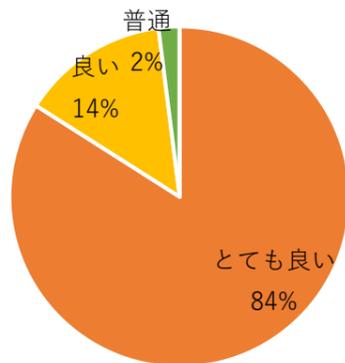


● 特に良かったもの

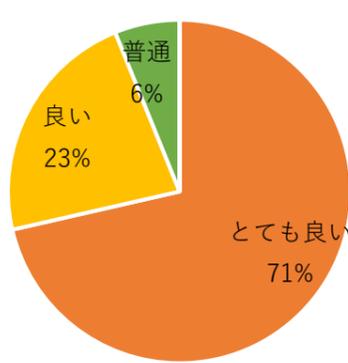


・一体的な広場活用の取り組みは、「とても良い」が80%、来訪者では「悪い」「とても悪い」との回答はなかった。
 ・特に評価の高かった取り組みは「遊具」だが、全体にまんべんなく評価された。

● まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることについて



● てくてくやまぐちの取り組みについて



・まちなかが「居心地が良く歩いて楽しいエリア」になることについては、「とても良い」が77%、「良い」が23%で、活気や人が集うことを求める意見が挙げられた。
 ・取り組み全体については、「とても良い」が約7割、「良い」が約2割と評価が高い。

② 出店事業者アンケート

● 出店の満足度

とても満足 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 一の坂川のでくてくやまぐちで、遊ぶ場、とどまる場、木陰があると、人の滞在時間が長くなって、よりにぎやかに見えて、やっける感がより出てました。勉強になりました。他の出店の参考になります。 よい空間で働く側も心地良かったです。 場所もお客さんも雰囲気が良かった。 ご来場されている方も出店されている方も気持ちよく過ごされていたため。 良い取り組みのため、続けた方が良い。もっと参加される方を増やした方が良い。
満足 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが元気に楽しく遊べる空間、木材の使い方が最適だと思った。 お天気良かった！笑 思った通り雰囲気良かったです。忙しすぎず、イベント自体を楽しめました。 人の流れがどのように作られていくかを知ることができた。 日頃見ない客層を見た。

● 今後の参加意向

参加したい (8)	<ul style="list-style-type: none"> ほどよいイベント規模で、気持ちよくイベント出店させて頂けたから。 十分な売上も見込めるため。 新メニュー開発 楽しかったから。 自分自身もお客さんも心地よいやり取りができ、また取組自体がとても素晴らしいと感じるため。 日々の仕事と違って癒しの時間を味わえるので。 継続して知りたい、見たいと思いました。
-----------	---

・出店者は「飲食」「飲食（キッチンカー）」が大半となった。初めての催しであったことから来場数の見込みが難しく、また屋外イベントでもあることから、物販での出店には敬遠されたと想定される。
 ・出店はほぼ主催からの声掛けによるもので、新規の応募はなかった。
 ・出店者の満足度は高く、参加者全員が今後も「参加したい」と回答した。特に空間を評価する声が多く、また、来場者の層や過ごし方についても、出店者にとって普段と異なる魅力となっている。

● 出店箇所や広さなど

とても満足 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 道路からも良く見える場所で、トイレも近くにあるので利用しやすい場所でした。程良く開放感があり、まちの雰囲気も良い所でした。 広々使わせて頂きました。 スペースの広さも環境もありがとうございました。ご配慮いただき有難いです。 問題なかったです。 良い取り組みのため、続けた方が良い。もっと参加される方を増やした方が良い。
満足 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 不満に思うところがなかった。 小規模店なので広すぎずちょうど良い。
どちらでもない (1)	<ul style="list-style-type: none"> 広さと場所は良い。

● 交通交流広場が日常的に出店などが行われる場となることについて

とても良い (6)	<ul style="list-style-type: none"> 普段はあまり使われていないようなので、まちなみも素敵なのにもったいないなと思いました。人が集うことで、川沿いの店舗さんも潤うと思います。 人々がゆっくりでき、公園、図書館を利用される時の休息の場となれば良いと感じました。 ご来場されている方からもこの様な取り組みを日常的に要望お聞きしました。 とても楽しいまちになるような気がするのでとても良いと思います。うらやましいです 何の為にわからない場所（広場）の可能性を拡げるきっかけとして必要だし、望んでいます。
良い (2)	<ul style="list-style-type: none"> 維持して人と人が集まれるキッカケの場所になって欲しい。

・出店箇所や広さについては特に不満もなく満足度は高かった。
 ・日常的に利活用されることに対しては、すべての出店者が「とても良い」または「良い」と回答した。

■ 調査結果

③ 交通影響調査

【検証内容】

- 広場を分断する道路を歩行者専用にするための交通影響、利用者の安全性などを検証
- 3か所に交通規制看板を設置

【検証方法】

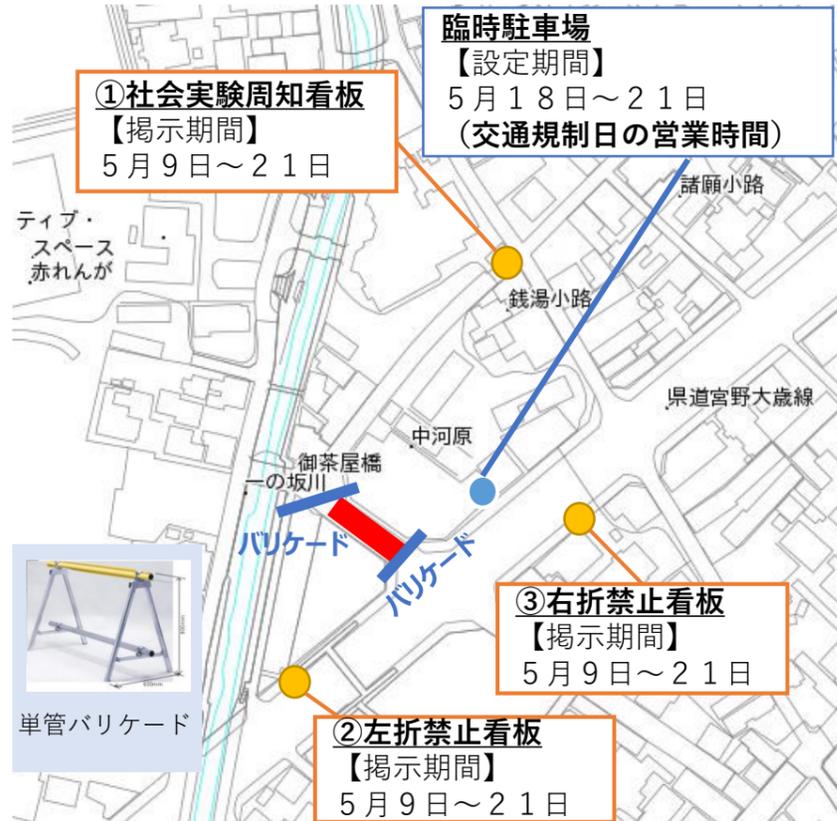
- 西京橋・中市町・大市町の各交差点でビデオ観測を実施

【調査日時】

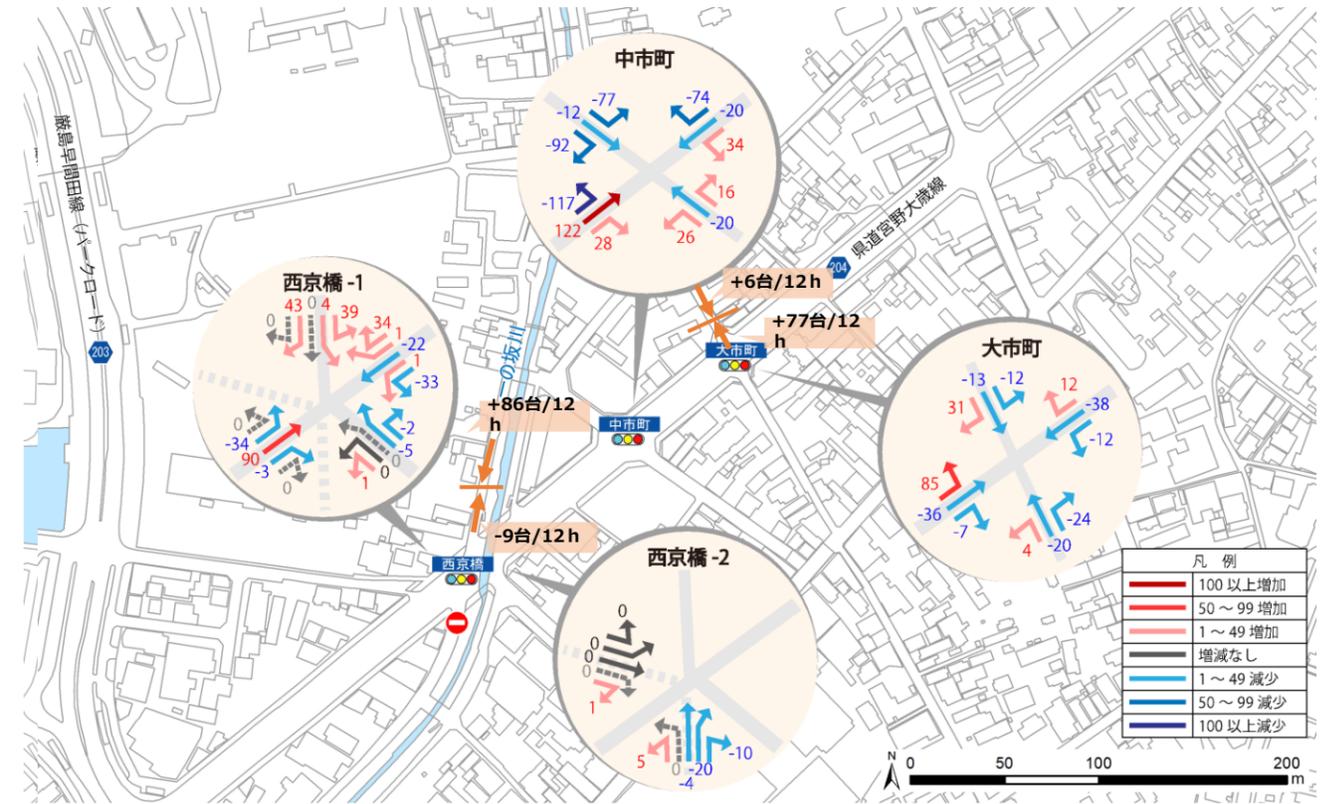
実験前：4月21日(金)・23日(日) 7-19時
 実験中：5月19日(金)・21日(日) 7-19時

【臨時対応】

- 近隣店舗の要望により、交通規制日に限り臨時駐車場を2台分設定（既存建屋裏）

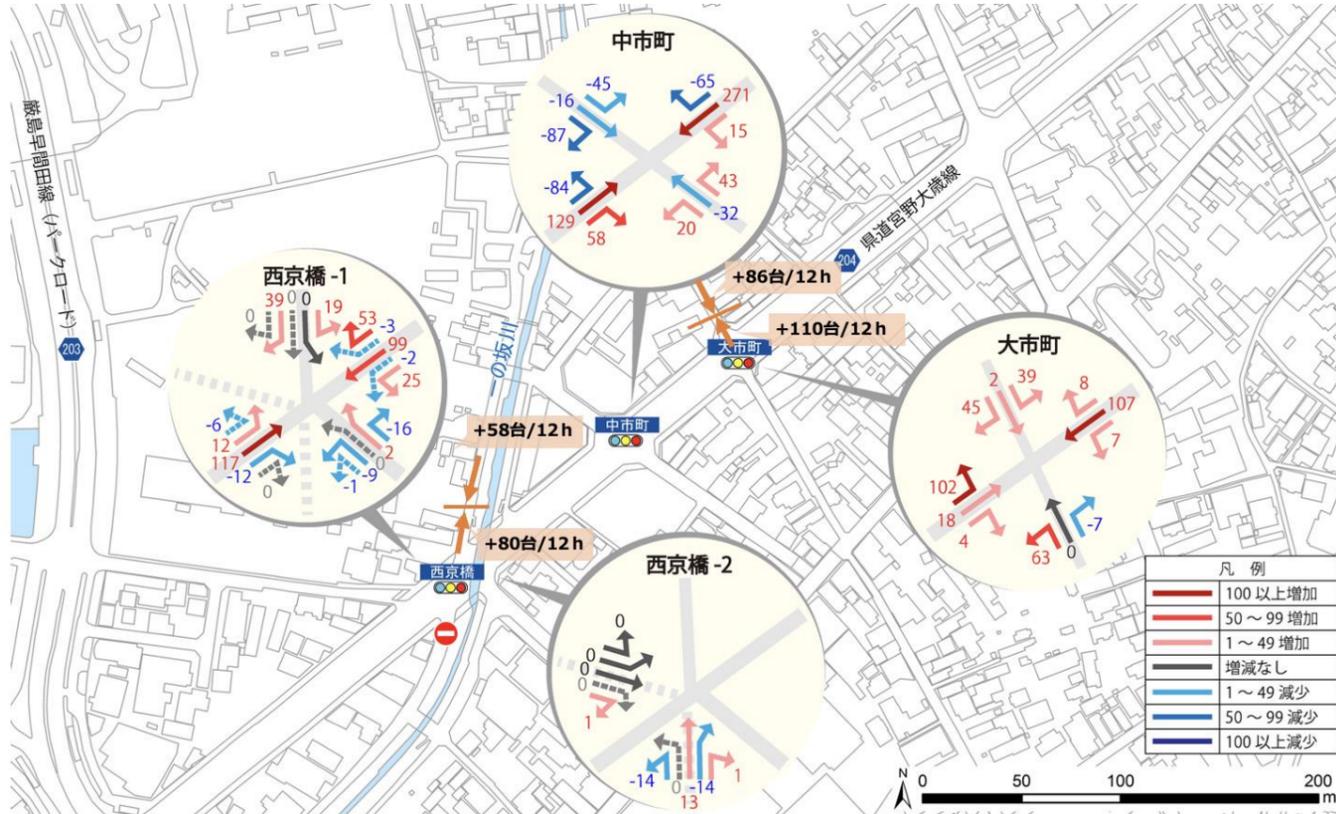


▼ 自動車交通量の変化【休日（7～19時）】 ※数値 = 「社会実験中（5月）の交通量」 - 「社会実験前（4月）の交通量」



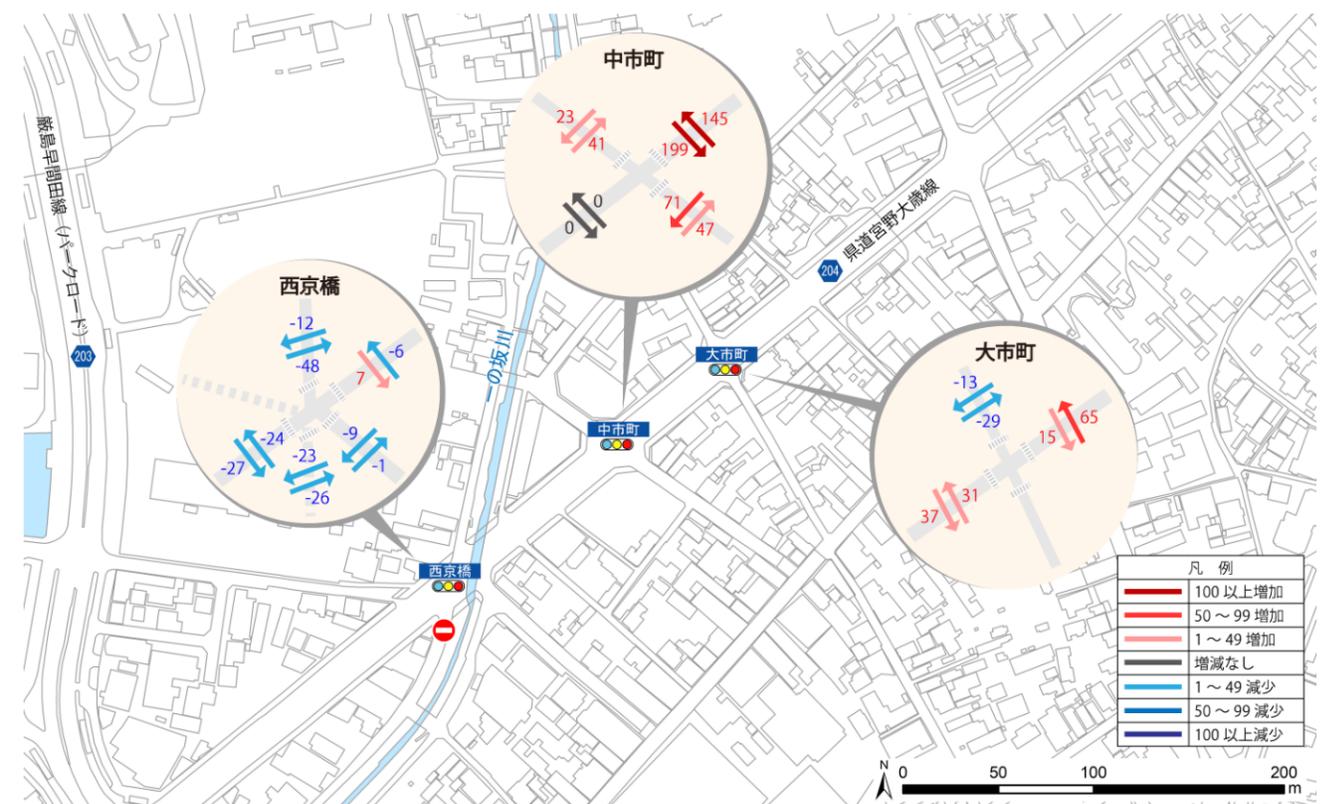
・一部、平日よりも自動車交通量の増加幅が大きい方向の交差点もあるが、全体としては平日より休日の方が他の交差点に与える自動車交通量の増加幅は少ない。

▼ 自動車交通量の変化【平日（7～19時）】 ※数値 = 「社会実験中（5月）の交通量」 - 「社会実験前（4月）の交通量」



・ 交通交流広場前の歩行者専用化に伴い、西京橋交差点北と大市町交差点北へ流入・流出する自動車交通量が増加しているが、いずれの方向も1時間あたり10台にも満たない。

▼ 歩行者・自転車交通量の変化【休日（7～19時）】 ※数値 = 「社会実験中（5月）の交通量」 - 「社会実験前（4月）の交通量」



・ 交通交流広場前で出店等のイベントを開催していたため、中市町交差点では広場側と商店街側との行き来のために県道を横断する歩行者・自転車交通量が増加している。

■ 調査結果

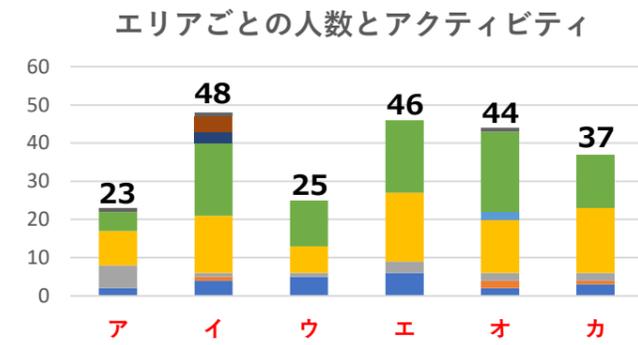
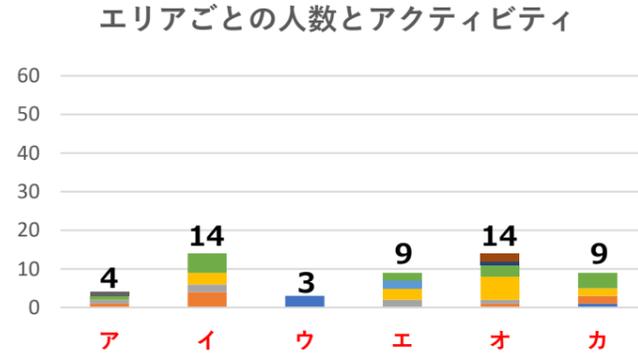
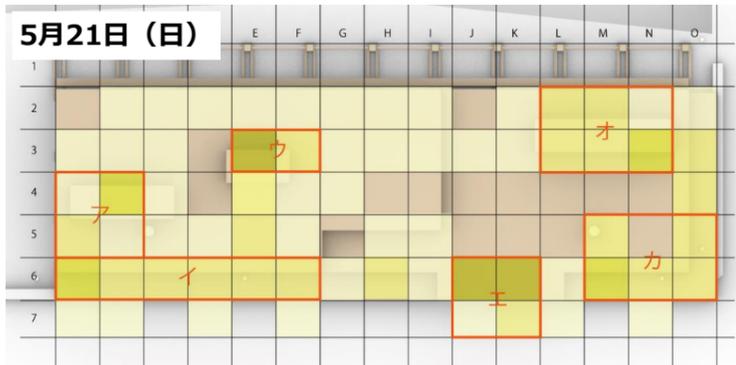
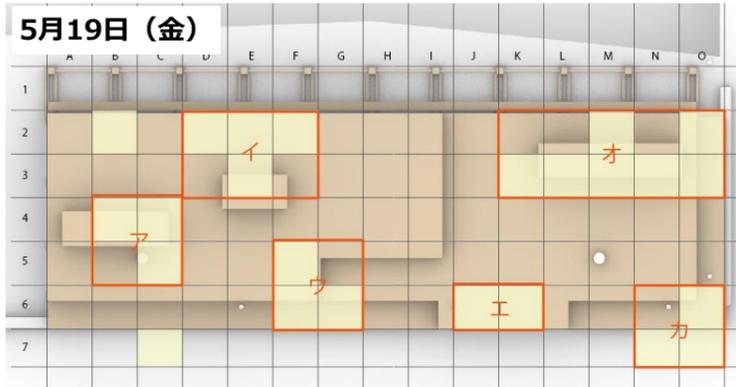
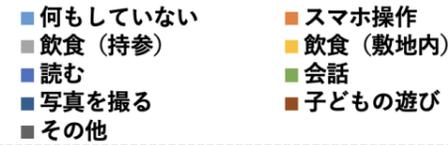
④ 滞留調査

● ミズベテラスの利用状況

調査日時

5/19 (金) 9:00~17:00

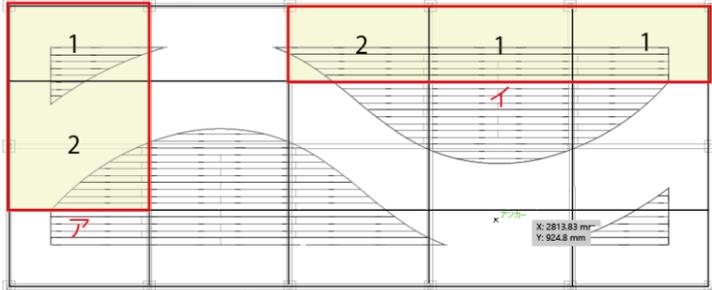
5/21 (日) 9:00~17:00



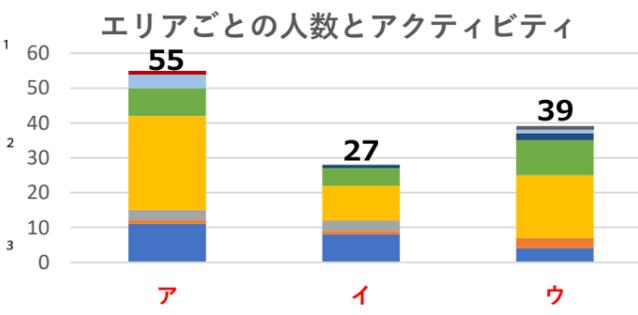
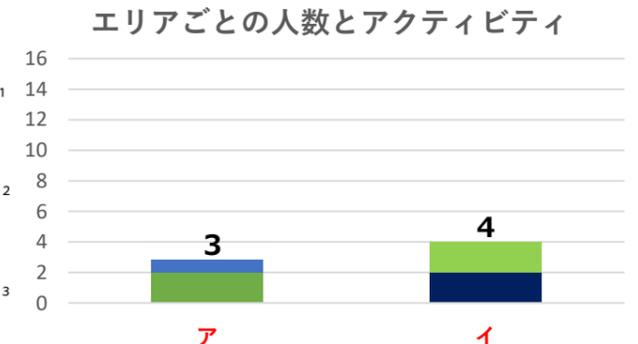
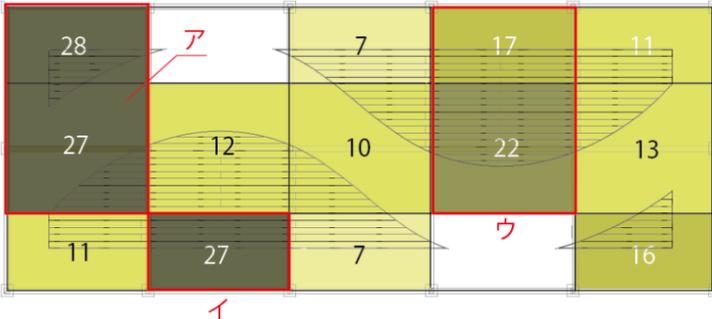
・平日は、川側に座っている利用者が多かったが、休日では逆側の面の利用が多く、子どもの遊びを見守る親が多いことが推測される。
 ・アクティビティは会話が多く、交流の場として使われていることが分かる。

● 風の涼み台の利用状況

5月19日 (金) ※設置作業のため14時~17時の調査



5月21日 (日)



・休日は出店の影響で「食事」が多く、それと併せて「会話」が増えている。
 ・休日のアのエリアでは「何もしていない」も多く、こちらもミズベテラスと同様に子どもの遊ぶ様子を見守る親が多いことが推測される。

■ 検証結果分析

① 河川空間の利用ニーズの検証

- ・家族連れ等がゆったりと会話するシーンが多くみられ、「交流の場」として利用された。
- ・調査期間中、特段の掲示等は行わなかったが、危険な利用は見受けられなかった。
- ・夜間もテーブルライト等で最低限の視認性を確保することで危険は確認されていない。(蛍の飛ぶ場所でもあることから過度な灯りは避けることが望ましい。)
- ・段差を設けるなどデザイン上の工夫により、安全な利用を促しつつ親水性も高める可能性が実証された。
- ・公園の対岸に設置したため、川側への視線の抜けが出来、公園との一体感にも寄与した。

② 空間の一体化による効果検証

- ・遊具では子どもたちが楽しみ、大人は木陰でゆっくりする、その後家族で飲食を楽しむといった形で広場内各エリアを一体で楽しむシーンが造成された。
- ・夜間に特別な管理は実施しなかったが、交通面や防犯面での混乱は生じなかった。
- ・今回は主催による運用により、パラソルの管理(開閉等)やボラードの運用等を行ったが、将来的には運営主体が存在することが魅力的な空間づくりに不可欠である。
- ・交通規制に伴い、周辺の交差点への負荷や代替道路の交通量を確認したが、定量的には、平日・休日ともに大きな支障は生じていないと評価できる。
- ・ただし、実施に当たり、近隣店舗から、交通規制による営業への影響に関してマイナスの影響があり得る旨の意見があったことも踏まえ、近隣店舗や周辺住民の理解醸成に関しては、社会実験の結果を踏まえて丁寧に進めていく必要がある。

③ 交通結節機能の拡充

- ・サイクルポートはより目立つ位置に設置し、認知可能性は向上した。ただし、設置位置を変更するだけでは、利用に結び付く様子は見られなかった。
- ・風の涼み台など大型の什器を設置することにより、商店街や県道からの視認性、広場としての認知可能性は向上した。各エリアを周遊する動きも一定数見られたことから、各スモールエリアの魅力向上と一体で結節機能の拡充も検討可能である。

④ 既存施設の利活用

- ・既存建屋では、保健所の許認可は屋外出店と同様に必要ではあるが、インフラが整っているため、屋台出店よりも手の込んだランチプレートを提供する出店が可能となった。
- ・また、出店用の電源やイベント来場者のトイレも既存建屋で確保することができたことは、利活用を促進する要素と言える。
- ・屋外出店に比べ、広場との連続性にはメニューの外部への掲示等の工夫が必要。
- ・常設に向けた事業性に関してはまだ未知数。出店調整においては、どのくらいの来訪が見込めるかが不透明であったことがネックとなった反面、実際には日常利用の方も多く出店者の満足度も高かった。
- ・事業活用が可能となれば、地先空間や広場全体の管理とも連動させ、広場全体や一の坂川流域全体への好影響も可能性があると考えられる。

■ 山口駅通り

社会実験結果

- ①歩道にテーブルや椅子などの什器を設置することについて、利用者からは、おおむね好評の意見
- ②参加店舗については、飲食店や装飾品店などからは好評である一方、外から見られることに抵抗感を示す店舗もあり
- ③歩行者の滞留時間は伸びる傾向
- ④自転車の駐輪場所が無くなり、駐輪場所の問い合わせが増加

実験結果を踏まえた今後の取組

- ①継続的に歩道を活用するための社会実験の継続
- ②参加店舗をさらに増やすための周知活動
- ③各店舗のニーズの違いへの対応や、安全性等に配慮した什器形状の工夫
- ④山口駅通りの道路空間の再編案の早期策定
- ⑤活用可能な歩道スペース、駐輪場の確保に向けた検討
- ⑥歩道をさらに活用しやすくするためのルールづくり
- ⑦道路空間の魅力を高めるための沿道建物のデザインガイドラインの策定

■ どうもん広場

社会実験結果

- ①利用者からは、取り組み全体に対しておおむね好評の意見
- ②利用者は、商店街を散策中に利用する方が多く、滞在時間も増える傾向
- ③地先事業者、出店事業者からも好評の意見が多かった
- ④休日の出店は予想を上回る売り上げがあるなど、ポテンシャルの高さが確認できた一方で、平日は予想を下回る日もあるなど、課題もあり
- ⑤遊具を設置したことにより、家族連れの利用も多かった
- ⑥休日の調査日の天候が雨であったため、結果にバラつきがある

実験結果を踏まえた今後の取組

- ①継続的に広場を活用するための社会実験の継続
- ②什器や遊具等の常設化の検討
- ③広場を活用しやすくするためのルールづくり
- ④継続的に事業者を確保するため、売り上げが確保できる仕組みづくり
- ⑤キッチンカーのアーケードの交通規制時間帯における入出場を可能とするための協議
- ⑥他のスモールエリアにおいても同様の取組の検討

■一の坂川交通交流広場

社会実験結果

- ①天気にも恵まれ多くの利用者があり、利用者からも、好評の意見
- ②出店事業者からも、十分な売り上げもあり好評で、再度の参加を希望する声も多かった
- ③ミズベテラス、風の涼み台とも、会話や飲食など様々な形で多くの利用者があった
- ④トイレや電源を備えた既存施設のポテンシャルが再確認された
- ⑤県道204号を横断して来場する方が、社会実験のない休日に比べ増加
- ⑤広場を分断する市道の通行止めによる、周辺道路への影響は大きくなかった

実験結果を踏まえた今後の取組

- ①継続的に広場と市道を一体的に活用するための社会実験の継続
- ②交通規制に関する周辺住民、近隣店舗の理解の醸成
- ③テラスや遊具等の常設化の検討
- ④既存施設の活用の検討
- ⑤広場活用のためのルールづくり
- ⑥広場を継続的に活用するための運営主体の検討
- ⑦商店街から人を呼び込む、又は商店街への人の流れを作る仕組みづくり

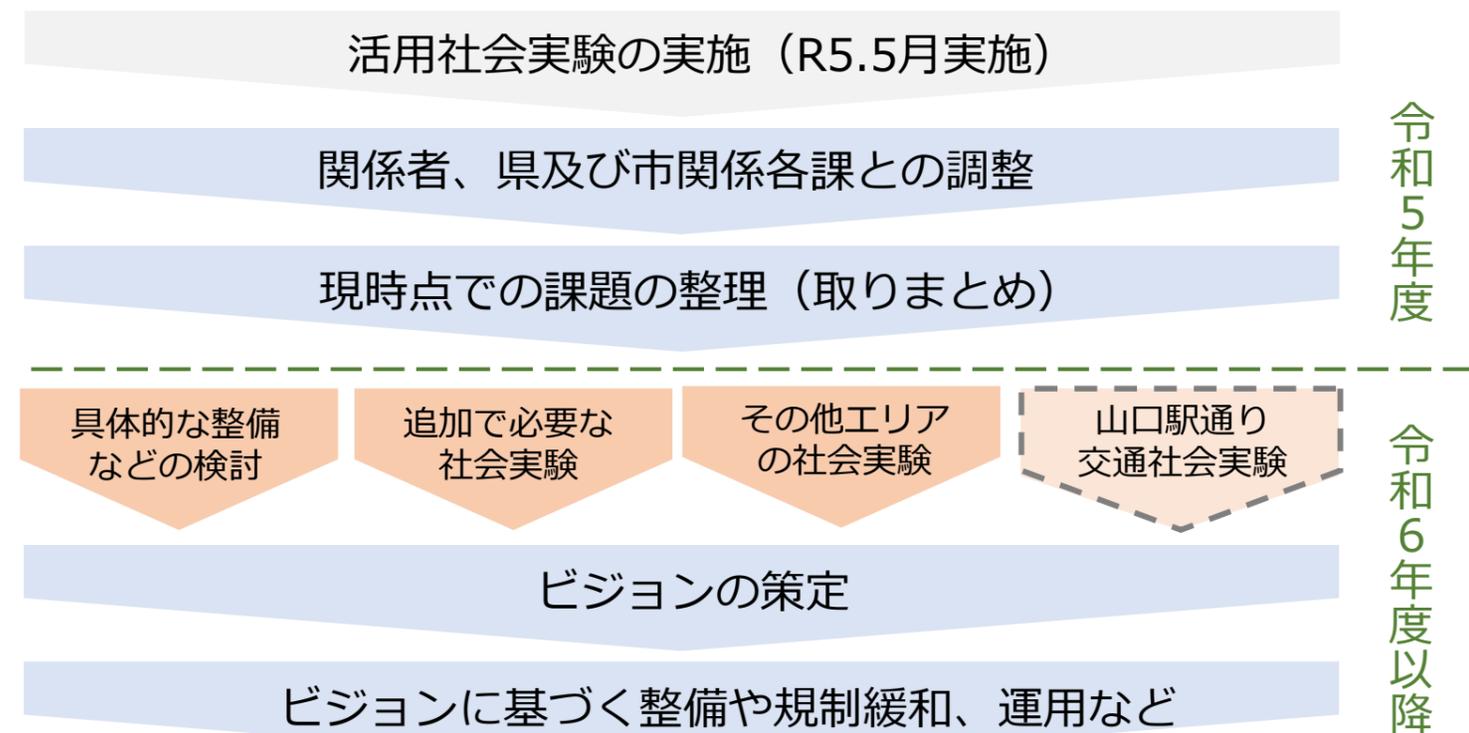
■まとめ（全体）

今回の社会実験により、空間活用に関しては、利用者や活用事業者から一定の評価を受けるとともに、人の流れや滞在時間も増加しており、広場等の活用が回遊性の向上につながることを確認された。

一方で、事業者が継続的に活用していく仕組みづくりやエリア全体の人の流れを作っていくためには、こうした社会実験を継続し、実績を積み重ねていくことが必要であることが確認できた。

このため、回遊性を生み出す魅力あるスモールエリアの形成を進めていくためには、今後も引き続き社会実験等を実施し、課題解決に向けた検討を行うことが必要である。

■今後の流れ



令和5年度は、一旦、これまでの取組を検証し、ビジョン策定に必要な関係者等との調整、課題の整理を行うこととする。

当初のスケジュール案では、今年度中にビジョンの策定まで行う予定であったが、山口駅通りの整備案の検討や必要に応じた交通社会実験の実施、各スモールエリアでの社会実験の実施も必要であることから、来年度以降も引き続き、エリア全体のビジョン策定に向けた取組を進めていく。